冷却班　デザインレビュー

昨年度の冷却システムはエンデュランスにおいて水温が110度を超えており冷却性能の向上が必須であった。そこでまずラジエータの配置の見直しを行った。2017年マシンはラジエータの外側が後方に倒れる形でついていたがサイドポンツーンが搭載されていないため走行風が表面をなでて逃げていると考え2018年マシンはコア面が正面をむくように配置しサイドポンツーンとの兼ね合いで25度前傾とした。またこのポンツーンに関しては冷却において空気への熱伝達が多くを占めるためより多くの空気を導風できる形状を委任した。またこの配置のため従来の大きさでは車両の幅を超えるためラジエータのコア面積を若干縮小した。これによって0.2kgの軽量化となった。さらにステーの見直しにより0.43kg軽量化した。ほかにもエンジン停止時に温度が上昇しておりこれの改善のため電動ウォーターポンプを搭載した。